

令和4年度 港湾防災防止協会無災害記録表彰 90事業場（うち第5種は12事業場）受賞

港湾防災防止協会においては、全国安全週間及び港湾労働安全強調期間初日の7月1日付けをもって当協会無災害記録表彰規程に基づき、24回目（令和4年度）の無災害記録表彰を行いました。

この「港湾防災防止協会無災害記録表彰」は、会員事業場が毎年末時点で同表彰規程に定める無災害期間または無災害延労働時間を記録している場合に、同事業場からの報告により、支部長が上申し、総支部長の審査・推薦に基づき行われるものです。

今年度は、各総支部長から推薦された90事業場が受賞されました。

昨年までに第4種無災害記録を樹立された事業場のうち、引き続き記録を伸ばし、第5種を受賞されたのは12事業場でした。

今回の第5種無災害記録の最高は、東海総支部の株式会社天野回漕店の407万4千時間でした。（株式会社天野回漕店から受賞の感想などをお聞きしていますので、次頁をご覧ください。）

無災害記録の樹立は、一步一步着実に

無災害記録の表彰候補推薦書作成の時点で、記録した時間数が表彰規程を上回り、上位区分の基準に達していたとしても、飛び級表彰は行われないうこととされています。

無災害記録を樹立するため、安全パトロール等により職場の危険を発見し、災害防止対策を実施するなど、危険、有害要因を排除して、一步一步着実に進めましょう。

第五種無災害記録表彰

株式会社 天野回漕店 殿

令和4年7月1日

港湾防災防止協会
会長 花本幸司




第五種副賞（安全盾仕様）

表彰区分及び年度別港湾防災防止協会無災害記録表彰件数

年度	区分	1種	2種	3種	4種	5種	合計
15年度		56	42	31	48	60	237
16年度		50	39	36	32	43	200
17年度		54	38	42	30	34	198
18年度		42	40	32	35	34	183
19年度		55	30	35	26	34	180
20年度		54	39	26	30	14	163
21年度		56	45	28	18	32	179
22年度		64	52	37	25	17	195
23年度		43	43	48	33	18	185
24年度		44	31	39	36	30	180
25年度		38	36	30	33	31	168
26年度		38	31	28	22	30	149
27年度		40	27	24	24	19	134
28年度		38	27	20	25	17	127
29年度		32	29	21	16	20	118
30年度		22	27	22	17	17	105
元年度		21	21	16	16	21	95
2年度		32	14	19	16	12	93
3年度		23	13	11	19	11	77
4年度		21	32	13	12	12	90

※平成11年度～14年度につきましては、省略しました。

安全は 急がず焦らず怠らず

これは、今年度の全国安全週間及び港湾労働安全強調期間のスローガンです。

全会員事業場が引き続き安全衛生生活に取り組まれ無災害記録を伸ばされることを祈念しております。

ご安全に！

無災害記録表彰：最高位「第5種」の最長事業場からの報告

株式会社天野回漕店（沿岸部門で無災害時間が407万4千時間）

当社（代表取締役社長山田英夫、従業員約500名）は大正12年5月設立。創業は1800年（寛政12年）で、清水港を本拠地として一般港湾運送事業（二種）、通関業、倉庫業等、輸出入貨物の取扱いを始め、国内物流業務、船舶代理店業務などを手掛けています。主な荷役機械としてフォークリフト180台を保有しており、その安全対策に注意を払っています。



株式会社天野回漕店：本社社屋

今回の栄えある受賞を契機に対象期間である過去5年間を振り返ってみますと、平成28年12月、作業職管理者（作業リーダー）の自発的な安全活動を行う「作業リーダー会」を社長直轄の品質管理室（現・安全品質推進室）の傘下に置き、組織的な活動としたことが始まりでした。平成29年2月、カウンターフォークリフトのシートベルト着用を義務化（これ以前は推奨レベル）しました。

作業現場においてシートベルト着用は安全の第一歩であるとの作業リーダーの理解のもと、丁寧な指導を行い、短期間で完全着用させることができました。

同年11月には、フォークリフト用ドライブレコーダーを導入（保有車両の約75%に装備）。こちらも「監視される」等の声があったものの、全ての現業センターへの説明会を通じて導入することができました。導入効果としては、貨物事故発生時の検証に加え、ヒヤリハット事例の見える化、フォークリフト作業者の評価（例えば、一人作業での安全確認実施）等に有効活用できています。

次に危険業務であるフォークリフト作業の安全性向上の指導強化のため、同年6月から日本倉庫協会が開講する「eラーニング講座」の「フォークリフト知識向上コース（3ヶ月間の通信教育）」（法令遵守の必要性、各種装置の構造・取扱方法等）を作業リーダー、作業サブリーダーが受講しました（現在までに全ての作業職管理者36名が修了）。

更に、毎年7月に実施される全国安全週間に合わせ、全現業センター（静岡県内20ヶ所）の一斉点検を「社長安全パトロール」として開始し、全社員の安全意識の向上を図ることができています。（それまでは不定期実施）。



フォークリフトを使っている荷役作業

今年4月には、それまでの「品質管理室」を「安全品質推進室」とし、部署・支店の垣根を越えた全社的かつ統一的な安全品質活動をワンランク上のレベルで行うべく、指導役（作業職員の最上位）3名を安全品質推進活動専門メンバーに加え、活動を開始しました。早速、新入社員の集合教育、作業手順の一斉見直しを実施したほか、貨物事故の検証を徹底的に行うなど、安全な作業の確保、安心して働ける職場の確立を目指しています。

○指導役3名からは次のようなコメントがありました。
「事故やミスの発生はコミュニケーション不足によるものが多いと思います。自分たち指導役3名の発言や行動にぶれが生じないように、3人で擦り合わせを毎日行っています。」
「現場巡視では、全ての現場作業員に話し掛け、表に出難い不安・不満や些細な不安全行動も見逃さないよう常に心がけています。」
「不安全行動を確認した際には、即座に作業を中断させ、注意・指導をし

ています。今の行動（不安全行動）が人身災害に繋がる恐れがあることをその場で認識させています。」

「自発的な挨拶は、自ら安全な行動を実践できる、安全な人への第一歩と考え、指導を進めました。今では若手からベテランに至るまで気持ちの良い挨拶をしてくれます。」

「作業職員160名のトップとして、今後も基本ルールの徹底、過去トラブル是正対策の風化防止、報連相の強化等を指導していくとともに、後任指導役の育成にも尽力したい。」

一方で、今回の名誉ある受賞を手放しに喜んでばかりはられないのも現実です。死傷災害の発生は無くとも、軽微事例も含め貨物事故や重大な災害に繋がりがかねないようなヒヤリハット事例が未だに無くならないからです。

また、従業員構成の変化、雇用延長政策に伴う高齢者の増加、女性作業職員の増加等を踏まえた活動に取り組むほか、異常気象に伴う職場環境の変化（夏季の気温上昇、局所的豪雨等）にも対応していかなければなりません。

人は楽をしたがる生き物ともミスをする生き物とも言われます。ヒューマンエラーを防ぐためには、これからも毎日の地道な巡視や指導を欠かさないことが重要だと考えます。安全に特効薬はありませんので、「基本を磨き続ける力」を最大限に発揮して、今後も全社をあげて、安全な職場づくりを目指していきます。

ご安全に！
安全品質推進室 望月和久